「能登・祭りの環」学生サポーター事業

代表者名●地域連携センター長：川島　哲・同コーディネーター：本康宏史

はじめに（背景・目的・目標）

「能登キャンパス推進協議会」による事業。県内高等教育機関に在籍する学生が、事前に奥能登の祭りや地域の背景について学習した後、担ぎ手等として参加し、奥能登の伝統文化に触れる学びの場を創出する。関係人口創出のため、学生が継続して奥能登と接点を持てるようにする機会を設け、奥能登への理解を深め、情報発信等を行う。

活動内容

沖波大漁祭りは、穴水町沖波地区で8月14日、15日の2日間の日程で行われる祭礼である。沖波諏訪神社の御神体が海からの漂着神であるという言い伝えから、キリコを海中に担ぎ込んで禊を行い、大漁と海の安全を祈願したことが祭りの始まり。キリコは各小地区（組）に属し全5基が祭りに関わる。

初日は、担ぎ手等の御払いから始まり、沖波諏訪神社で神輿を迎えた後、キリコが集落を練り歩く。夜には花火が打ち上げられ、神輿を中央にして恵比寿神社まで移動し、乱打される太鼓や鉦の音にのって、「ヤッサイ」の掛け声とともに、恵比寿神社で夜中までキリコが乱舞する。

2日目は、朝、遠浅で知られる「立戸の浜」にキリコが勢ぞろいすると、「沖波大漁太鼓」が打ち鳴らされ、笛の合図で1基ずつ海へ入り乱舞する。禊を終えたキリコは砂浜に戻る。能登のキリコ祭りのほとんどは夜が見どころであるが、沖波大漁祭りは昼夜、見どころのある祭りである。

参加当日の学生の活動は、以下のとおり。

場　所：穴水町沖波地区
参加者：学生42名（うち星稜大生は29名）、実行委員2名・副担当者2名・事務局2名（県・星稜大）・穴水町役場職員3名
内　容：沖波大漁祭り、よばれへの参加。

事前学習を全体会1回、個別で1回実施した。

日程

＜事前学習＞　リモートでそれぞれ開催。全体会：6月16日、沖波大漁祭り：7月24日

＜祭礼1日目＞　それぞれの組に分かれて、スタート地点から町内巡行開始。沖波諏訪神社で神輿を迎え入れ、恵比寿神社でキリコ乱舞、夜には、花火鑑賞も。男女分散して宿泊。

＜祭礼2日目＞　恵比寿神社から立戸の浜へ移動し、奉納打ち。キリコは海に入り乱舞し、その後、地区に戻って終了。昼食は地区ごとの「よばれ」に参加し、地元の方々と交流した。

成果、結果の考察

コロナ禍の3年間を経て、4年ぶりに行われた祭りであった。当日は、5つの区に分かれて祭礼の一翼を担った。キリコの運行や地元の方々との会食（よばれ）などにより、充実した交流が行われ、貴重な経験ができたものと思われる。

なお、事業の様子は、多数のマスコミに取材、公表された（北陸朝日放送、NHK 総合テレビ、テレビ金沢、北陸中日新聞、北國新聞）。

今後の課題、展望

事前協議を含め、参加学生のサポート体制や体調管理にはそれなりの注意喚起やリスク管理に心がけていたものの、想定を越える酷暑、体力消耗による体調管理面での懸念も認められた。こうした点に関しては、地元・自治体・県・大学など関係者相互の認識共有、ならびに的確な役割分担を踏まえ、今後とも継続的にかかわれる事業の在り方が望まれる。

キリコを担いで海に入る